

地域に健康を語る

〈和歌山〉
有田病院
地域医療福祉部係長・
広報官
大向伸正



有田医療福祉センターの伊藤秀一総長は30年前から、地域のラジオ番組に出演を続け、

30年続けるラジオ出演。健康情報の発信はライフワーク

幅広いテーマで健康のコツを伝えていきます。たとえば、WBSと和歌山放送の「ラジオ健康相談」「健康ひとくちメモ」「あなたをまもる医療機器」など。「住民の健康増進につながる発信はライフワーク」と話す伊藤総長の取り組みを紹介します。

台本を用意し収録に臨む

最初のラジオ出演は1991年頃。当時は和歌山県立医科大学第2内科の講師に昇進したば

ではありませんが、「漫画が楽しい」と広報誌を心待ちにしてもらっている喜びが大きくて、励みになっています。利用者さんに私たちの介護サービスを理解してもらおうと描き始めた漫画には、思わぬ効果も。漫画の内容を職員一人ひとりが意識し、自らの援助を振り返って「なでしこの訪問介護の目的は何か」を再考す

るきっかけにもなっているのです。地域のみなさんに、私たちの訪問介護もつと理解いただき信頼してもらえたら、そして職員の見守りへの思いを共有するツールにもできるように、「ヘルパー日記」の連載を頑張ります！



連載のきっかけとなったパンフレット

ラムを月一で連載中でした。「それを読んだWBS」「ラジオ健康相談」のスタッフ・栢植義信さんから出演をオファーされたのです。最初はたしか「アルコールと肝臓病」がテーマでした」と伊藤総長は振り返ります。「ラジオ健康相談」は月々金曜日の週5回、健康や病気に関するワンテームを専門医が解説する10分番組で、1週間分を一



「ラジオ健康相談」の収録中



「胆石症」解説回のラジオブース（2022年6月28日から5日連続で放送）

度に収録します。伊藤総長は出演のため、消化器疾患で頻度の高い病気を取り上げています。「例えば「お酒と病気の話」がテーマなら①お酒の種類とアル

コール度数②お酒の健康な飲み方③アルコール依存症④お酒と病気の話、肝臓病だけではありません⑤お酒と肝臓病——のシリーズ⑥お酒と肝臓病——のシリーズ⑦お酒と肝臓病——のシリーズ⑧お酒と肝臓病——のシリーズ⑨お酒と肝臓病——のシリーズ⑩お酒と肝臓病——のシリーズ

ラジオでは「専門用語をできるだけ使わず、分かりやすく話すことを一番大切にしている」と話す伊藤総長。

「それから時間順守と、急な出演リクエストも断らない配慮が大事。収録では秒刻みの時計を始終意識し、やり直しは一度もしたことがありません。赤井ゆかりアナウンサー、栢植義信さんは「ラジオ健康相談」をともにつくるチームメイト。時には年4回ほど出演し30年も続いているのは、互いの信頼関係がある「こそ」と述べています。

広報委員会・広報官は済生会の全施設に設置を

多くの人が聴くラジオですが、数年前まで啓発効果はあまり感じていなかったといいます。

「潮目が変わったのは、大向伸正広報官（筆名）が収録に同席し、手作りの告知ホスターを院内掲示してから。「伊藤先生のラジオ聞いたよ！」と患者さんからの反響が直接届くようになり、

テーマ	放送日時
「C型肝炎の最新治療——主治医の経験が豊富です——」	9/19 (月) 第12回～ C型肝炎の最新治療について
	9/20 (火) 第12回～ C型肝炎の最新治療について
	9/21 (水) 第12回～ C型肝炎の最新治療について
	9/22 (木) 第12回～ C型肝炎の最新治療について
	9/23 (金) 第12回～ C型肝炎の最新治療について

再放送：9/28 (月) ～ 9/30 (金) 第13回

今年9月のラジオ出演告知ポスター

手応えを感じています。この経験で広報の大切さを改めて感じたという伊藤総長は、済生会広報委員長の立場から、済生会のすべての施設が広報委員会を設けてほしいと訴えます。「委員や広報官になると、広報活動に対する使命感が目覚めます。それが広報の第一歩になる」

筆者も、済生記者で広報官。地域に施設をつなぐ大切な役割があると再認識し、使命感を持ち広報活動を展開していきま



伊藤総長の啓発活動はラジオ以外にも、写真は有田医療福祉センターが毎年行なう「健康フェスタ」